

3 釜石市への支援

(1) 釜石市への支援活動

本市は、発災直後より岩手県釜石市に対し積極的かつ継続的な支援を行っている。平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度も継続的な支援を行うとともに、釜石市のバックアップデータの受け入れ等の新たな取り組みを行った。

① 職員派遣

24 年度も引き続き支援を行うため、本市職員 10 名を釜石市へ派遣した。

(24/12/8～12/14 に選挙事務支援の短期派遣を実施)

| | |
|------------------------|---|
| 平成 24 年度派遣状況 | |
| ■派遣期間 平成 25 年 3 月までの予定 | |
| ■派遣者 | |
| ①北九州市・釜石デスク | 土木職 1 人 (課長 1 人) ※他に現地採用スタッフ 1 人 |
| ②区画整理・集団移転・都市計画 | 土木職 4 人 (係長 2 人、係員 2 人) 事務職 1 人 (係員 1 人) |
| ③漁港整備 | 土木職 2 人 (主任 1 人、係員 1 人) |
| ④健康相談・心のケア | 保健師 1 人 (係員 1 人) |
| ⑤水道整備 | 土木職 1 人 (係員 1 人) |
| ⑥選挙事務[24/12/8～12/14] | 事務職 1 人 (課長 1 人) > |

② 北九州市・釜石デスク

本市は、釜石市との連絡窓口となる職員が常駐する「北九州市・釜石デスク」を 23 年 8 月 1 日、釜石市役所内に開設した。

平成 24 年度も年間を通じて担当課長が常駐し、支援に係る具体的なアドバイスや本市関係部局との連絡調整、派遣職員の総括などの業務にあたった。

③ スマートコミュニティ事業

釜石市は、震災時に一部の地域で長期間停電にみまわれ、市民生活や産業活動に多大な影響を及ぼしたことから、自立したエネルギー確保の必要性を痛感した。そこで、災害時を含めた地域への安定・安価なエネルギー供給や産業の活性化、さらには新たなまちづくりの観点から、スマートコミュニティの導入が検討されている。



スマートコミュニティ検討会の様子

検討に当たっては、本市が東田地区で展開しているスマートコミュニティ事業を参考にし、平成 24 年度は、昨年度の事業化検討委員会に続き、本市担当理事が基本計画検討委員会のメンバーとなり、本市の経験やノウハウを活かした助言等を行った。

今年度「釜石市スマートコミュニティ基本計画」を策定したところであり、今後、事業の進展に応じて、引き続きアドバイス等を行っていくこととしている。

※スマートコミュニティ：電力や交通、情報などの社会基盤を「統合的に管理しよう」「効率よく使おう」といった、新しいまちづくりの概念

④ 釜石市のバックアップデータの受け入れ

東日本大震災では、庁舎が津波の被害を受け、サーバが流出したことにより、住民情報の復旧が極めて困難な状況になった自治体が多数あった。そこで震災後、被災地をはじめ全国の自治体において、庁舎外に住民情報のバックアップデータを保管する動きが見られている。

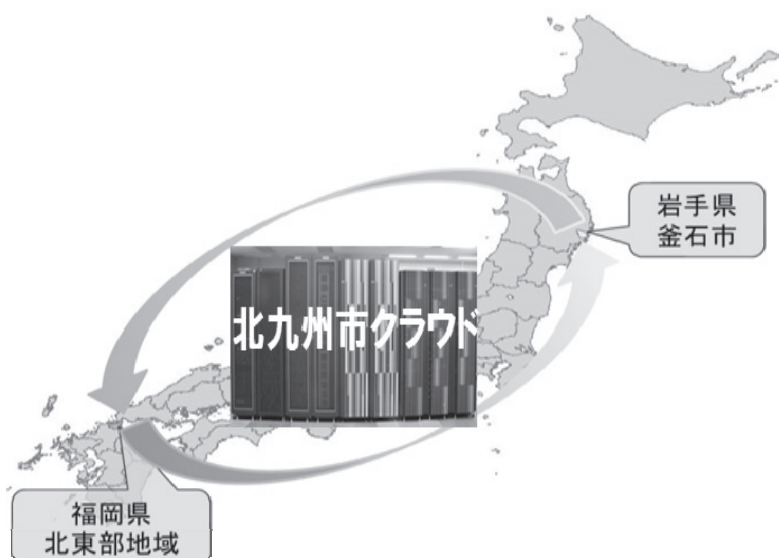
北九州地区でも、周辺自治体が参加する「北九州地区電子自治体推進協議会（KRIPP）」で、「北九州クラウド」を用いた周辺自治体のバックアップを受け入れることになった。

そこで、KRIPP に釜石市が参加することとなり、5月25日の釜石市のKRIPP加盟の承認、その後の技術的な調整を経て、平成25年1月16日、バックアップが開始した。



「北九州地区電子自治体推進協議会総会」にて釜石市のバックアップデータを北九州で受け入れることが承認された（24年5月25日）

今年度、釜石市、福岡県苅田町の2団体のデータをバックアップすることで開始したが、平成25年10月から福岡県芦屋町の参加も予定され、さらには、釜石市の働きかけにより、岩手県内の複数の自治体が興味を示すなど、今後の更なる広がりも期待されているところである。



(2) 市民・行政が一体となった支援活動、交流事業

行政による取り組みに加え、市民・企業・団体等による釜石市及び釜石市民を対象とした様々な支援活動や交流事業がなされた。

①中学生によるひまわりの贈呈（北九州ドリームサミット）

（社）北九州青年会議所が市内の中学生を対象に実施している北九州ドリームサミットの取り組みとして、市内の中学生が、「北九州から笑顔をお届けよう」との思いで、市の花のヒマワリを釜石市に贈った。

市内の全 72 中学校でヒマワリの苗木を育て、これに思いを込めたメッセージボードを添え、8月22日、23日、代表者5名が釜石市を訪問し、被災小中学校と保育園に対して贈呈した。また、釜石市の野田市長を表敬訪問し、集めた募金をお渡しした。



釜石市の小・中学校へひまわりをお届けした北九州市内中学生代表（24年8月22日）

②北九州市立高校

震災以降、生徒会、ダンス部、吹奏楽部、インターアクト部などが中心となり、募金活動、チャリティグッズの販売、チャリティコンサート（3回）などを行った。

さらに、「実際に被災地に行って、何かできることをしたい」という思いから、8月21日～23日、ダンス部25名が釜石市を訪問し、震災復興をテーマにした創作ダンス「3.11～忘れてはいけないもの～」を市内の商業施設や釜石商工高校で披露し、釜石市民や釜石商工高校の生徒たちとの交流を深めた。あわせて、釜石市の野田市長を表敬訪問し、文化祭の収益金を寄付した。

また、現地を訪問した際、被災地の産業の支援も重要であると感じ、第10回ダンス部公演及び第3回チャリティコンサートにおいては、釜石の土産物「釜石ラスク」の販売も行った。



釜石商工高校でダンスを披露した北九州市立高校ダンス部（24年8月22日）

③かまいしプロジェクト「笑顔と元気」

毎日新聞西部本社（北九州市）が、復興支援に寄せる市民の思いを見える形で実現するため、

釜石市の復旧、復興を支援することを目的に募金活動を行っている（協力：(株)ハローディ（全店で募金箱を設置））。

第一弾として、現在、震災で施設が全壊し、現在は仮施設で運営されている釜石保育園と鶴住居保育園の再建支援（建設費、備品購入費などの支援）に取り組んでいるところ。

10月には、第1回目の支援として、9月までに寄せられた募金を両保育園に持参した。



鶴住居保育園に募金をお届け
(24年8月22日)

④わっしょい百万夏まつり

○東日本大震災応援ブース

8月4、5日、昨年度に続き、わっしょい百万夏まつりの会場に東日本大震災応援ブースを設置し、支援活動のパネル展示や東北物産の販売等を行った。

東北物産販売では、みちのく夢プラザ（北東北三県福岡合同事務所）による北東北の物産と、釜石市による釜石物産の販売が行われ、多くの市民が立ち寄り、東北や釜石の物産を購入いただくとともに、激励の声が寄せられた。

また、かまいしプロジェクト「笑顔と元気」（前記）の一環として、チャリティ餅つきが行われ、子供たちなどが餅つきを楽しむとともに、多くの市民から募金も寄せられた。

○虎舞披露（釜石商工高校）

北九州商工会議所が、わっしょい百万夏まつりや市内の観光地などを楽しんでもらおうと、釜石商工高校の生徒や教員等を本市に招待した。

本市滞在中、同校の生徒が、これまでの支援や今回の招待への感謝の意を表すため、わっしょい百万夏まつりのステージにおいて、伝統芸能である「虎舞」を披露した。

さらに、昨年度、同校に対して義援金を贈った戸畑工業高校を訪れ、多くの生徒の前で虎舞を披露するなど、両校生徒による交流が行われた。



わっしょい百万夏まつりに釜石市とみちのく夢プラザが出店 (24年8月4日)



わっしょい百万夏まつりのステージで釜石商工高校が「虎舞」を披露 (24年8月4日)

⑤釜石市に対する寄付

多くの市民、企業、団体等が、「かまいしふるさと寄付金」を通じて釜石市に寄付を行った。寄せられた寄付金は、釜石市の復興事業等に活用されている。

⑥ありがとうカップサッカー大会

昨年12月、住民票受付業務支援のため釜石市を訪れた本市職員が、現地でサッカー少年団と交流したことがきっかけとなり、8月5日、釜石のサッカーチーム（FC釜石）を本市に招待して交流試合が行われた（主催：北九州100万人・ありがとうサッカーカップ実行委員会）。

企画・運営は全て本市のサッカー愛好家によるもので、ギラヴァンツ北九州や若松区浜市場連合会をはじめとする企業、団体の協力のもと、当日は、市内の4チームが参加して、白熱したサッカー交流が行われた。



釜石FCを招いての少年サッカー大会
(24年8月5日)

⑦エコライフステージ2012

10月13、14日、エコライフステージ2012の会場内に東日本大震災復興支援ブースを設置し、支援活動のパネル展示を行うとともに、釜石ラーメン（釜石市提供）、石巻やきそば（石巻スコッパーズ：石巻市）が市民に振舞われた。

いずれも行列が出来るほど好評で、特に釜石ラーメンは一杯100円の料金設定に対し、多くの市民が寄付としてそれ以上の代金を支払うなど、用意した400杯は2日間であっさりと完売した（売上金は全て釜石市へ寄付）。



エコライフステージ2012にて釜石ラーメン
が出店(24年10月13日)

⑧釜石復興イベント

11月3、4日に釜石市で開催された「再生かまいし産業まつり」に北九州ブースを出展し、応援メッセージや両市の交流を紹介するパネルの展示を行うとともに、本市の名物・小倉発祥焼きうどんを釜石市民に振舞った。

2日間で800食（100円）を提供し、釜石市民から、「おいしかった」「遠くから支援に来てくれてありがとう」などの声が寄せられた（売上金は全て釜石市へ寄付）。

さらに、会場特設ステージにて、本市職員によるステージショーも行われた。



再生かまいし産業まつりにて「小倉発祥焼きうどん」を振る舞い（24年11月3日）



再生かまいし産業まつりステージショーに「大川ひばり」が出演（24年11月3日）

⑨農林水産まつり

11月17、18日、総合農事センターで開催された農林水産まつりにおいて、復興支援のお礼として、釜石市による焼きさんま（2,000匹）の無料提供が行われた。

両日とも長蛇の列ができるなど、多くの市民が三陸の新鮮なさんまを堪能した。

ここでも、多くの市民から釜石市職員に対して激励の声が寄せられた。

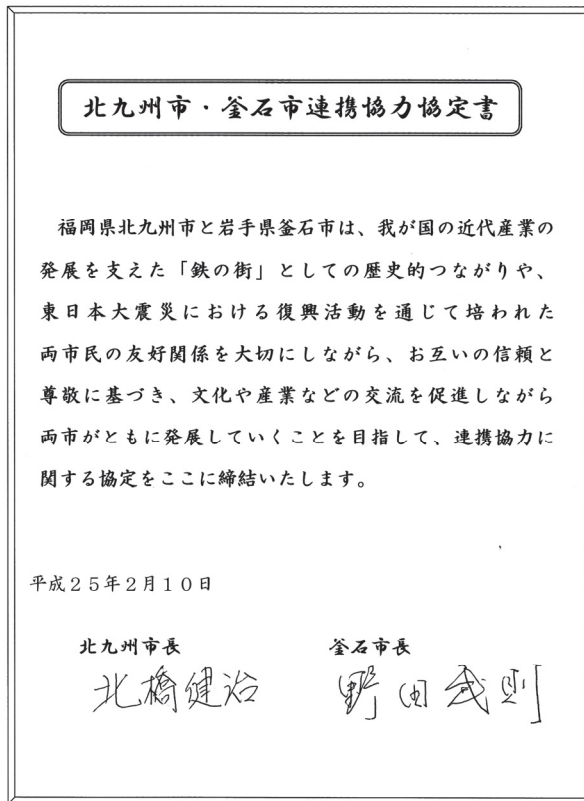


農林水産まつりにて釜石焼きさんま2,000本の無料振る舞い（24年11月17日）

(3) 北九州市・釜石市 連携協力協定の締結

鉄の街としてのつながりをきっかけとして始まった本市の釜石市への支援は、行政支援から前記のように市民や企業等による支援、交流に広がっていった。

そこで、今回培われた友好関係を尊重しながら、今後も両市民による文化交流や産業交流、さらには行政施策の連携などを推進することを目的に、これまで以上に緊密な関係を築けるよう、2月10日、両市は「連携協力協定」を締結した。



握手を交わす北橋市長と野田市長
(25年2月10日)



多くの報道関係者が詰め掛けた

<今後の連携分野>

◆世界遺産登録への連携した取り組み

ともに「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会のメンバーとして、両市の製鉄関連の史跡や稼動資産の世界遺産登録に向けた取組み、また今後の活用策等における連携協力の推進。

◆釜石市の復興・まちづくりの推進

○釜石市の早期復興へ向けた両市の協力連携による新たなまちづくりの推進。

○両市が取組みを進める「スマートコミュニティプロジェクト」における連携協力の推進。

◆防災・危機管理分野における連携した取り組み

○釜石市の震災の経験を活かした、北九州市の防災・危機管理対策の推進。

○釜石市の住民情報等のバックアップデータを北九州市で受け入れるなど、情報システム分野における危機管理体制の連携協力。

◆市民交流事業の推進

学校間や企業間の交流事業、また地域団体等によるお祭りやイベント交流事業など、市民交流事業の推進。

※ 連携分野における具体的事業等は、今後、釜石市の復興状況を考慮しながら検討。

また、当日行われた市制 50 周年誕生祭の会場において、釜石直送のホタテやイカを振舞う「浜焼き」が行われ、釜石市から北九州市民に対して支援への感謝の気持ちが表されました。一方、北九州市民から野田・釜石市長ほか釜石市職員に対して、多くの激励の声が寄せられました。

さらにその夜、これまで釜石支援に取り組んだ市民、企業、団体や、市議会議員、市職員などが、野田・釜石市長ほか釜石からの来訪者を囲んで、協定締結を記念する「釜石交流会」が行われた（170 名参加）。

交流会では、両市長から協定締結が披露されるとともに、記念品の交換が行われた（本市からは大漁旗、釜石市からは虎舞の置物）。

また、企業、団体等からは、釜石の復興に対するエールが贈られ、野田・釜石市長から本市の支援に対しては、改めて感謝の意が述べられた。

（連携協力協定締結記念イベント）



北九州誕生祭にて釜石浜焼きを出展し、ホタテを振舞う野田釜石市長（25年2月10日）



締結記念の釜石交流会には170人が集まり、両市の更なる交流発展を誓った（25年2月10日）



締結の記念品として、北九州市より大漁旗が釜石市に贈られた。（25年2月10日）



釜石市からは記念品として虎舞人形が本市に贈られた。（25年2月10日）

(4) 釜石市の復旧・復興の状況

(岩手県ホームページ「被災市町村の状況＜復興へ向けたメッセージ＞」平成24年11月より抜粋)

○被災状況

[人的被害]

死亡者数 888人(身元不明11人)
 行方不明者数 153人(H24.8.17現在)
 避難者数
 市内避難 9,883人(H23.3.17最大)
 内陸避難 633人(H23.5.9最大)
 ※死亡者数は、釜石市で遺体が収容された方



(3.11当日津波襲来の様子)

[家屋被害]

住家数16,182戸のうち4,658戸が被災(28.8%)
 ※被災の内訳(全壊2,957戸、大規模半壊395戸、半壊300戸、一部損壊1,006戸)

[産業関係]

市内全事業所2,396事業所のうち浸水範囲の
 事業所数1,382事業所(全体の57.7%)
 漁業関係：市内3漁協の漁船1,734隻のうち
 1,692隻が被災(97.6%)



◇人口動向

| | 釜石市の人口 | 男女別人口 | | 地区別人口 | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 被災地 | | | 非被災地 | | | |
| | | | | 本庁 | 鶴住居 | 鷹丹 | 栗橋 | 中妻 | 小佐野 | 甲子 |
| 平成24年3月 | 37,590人 | 17,799人 | 19,791人 | 9,578 | 4,697 | 1,860 | 1,335 | 5,079 | 8,523 | 6,518 |
| 平成23年2月 | 39,996人 | 18,798人 | 21,198人 | 10,819 | 6,630 | 2,105 | 1,263 | 4,856 | 8,308 | 6,014 |
| 増減 | △2,406人 | △999人 | △1,407 | △1,241 | △1,933 | △246 | 72 | 223 | 215 | 504 |

○仮設住宅等の状況

- ◆建設仮設団地 66団地・3,164戸 うち3,017戸入居(入居率95%)
 高齢化率 31.5%(5,889人中1,852人)
 ※市全体の高齢化率は33.7%
 独居高齢者 362人(1,852人中)
- ◆みなし仮設(民間賃貸)入居世帯432世帯
 みなし仮設(公営住宅)入居世帯225世帯
 ※平成24年8月現在(市外からの入居世帯含む)



(仮設住宅)

○釜石市復興まちづくり基本計画（平成23年12月策定）の概要

東日本大震災による被災地域の早期復興と新しいまちづくりに向け、市民、事業者、民間における様々な団体及び行政が共通の認識を持って取り組むための「まちづくりビジョン」と、これを具体化するための「施策」をまとめた。

釜石市復興まちづくり基本計画
＝スクラムかまいし復興プラン＝

◆ 策定趣旨

東日本大震災からの早期復興と新しいまちづくりのビジョンと施策を取りまとめたもの。

◆ 計画期間

平成23年度から32年度までの10年間を計画期間（応急・前期3年、中期3年、後期4年）

◆ 性格・役割

・今後のまちづくりの基本的な方向性を示す総合計画に準ずる役割をもつ計画。

◆ 策定までの経過

専門家を含めたまちづくり委員会や各地区でのまちづくり懇談会、パブリックコメントなどを経て、平成23年12月22日に、議会の議決を経て決定。

復興に向けての課題

- 1 新たな津波災害対策の構築
- 2 人口減少・少子高齢化への対応
- 3 交流人口の拡大への対応
- 4 産業の再生と雇用の場の確保
- 5 安心できる暮らしの確保
- 6 次世代に継承する取組の展開
- 7 地域を支える人材の確保
- 8 地域資源を生かしたまちづくりの展開

基本理念：次世代に誇りうるまちを創ること

基本姿勢：^{たわ} 撓まず屈せず

基本方針：

- 1 災害に強い都市構造への抜本的転換
- 2 この地で生き続けるための生活基盤の再建
- 3 逆境をバネとした地域経済の再建
- 4 子どもたちの未来や希望の創造

基本目標

- 1 暮らしの安全と環境を重視したまちづくり
- 2 絆と支え合いを大切にすまちづくり
- 3 生活の安心が確保されたまちづくり

- 4 人やもの、情報の交流拠点づくり
- 5 ものづくり精神が息づくまちづくり
- 6 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり
- 7 歴史や文化、スポーツを活かしたまちづくり

『12のスクラムプラン』 7つの基本目標を具体化し、復興を支える主要施策

| | |
|--|---|
| ①生命優先の減災まちづくりの推進（多重防御による津波対策の推進）…防波堤・防潮堤等の整備、避難誘導体制の整備、防災意識の高揚 | ⑦三陸交通ネットワークの形成…三陸縦貫自動車道及び東北横断自動車道釜石秋田線の早期整備、JR山田線、三陸鉄道の早期復旧 |
| ②住まいとコミュニティの再構築…災害公営住宅の整備、安全な居住地の確保、仮設住宅での生活支援 | ⑧食を支える地域産業の展開…魚のまちの復活（水産業の6次産業化）、魚市場機能の整備 |
| ③主要公共施設の再配置と土地利用…消防庁舎、市庁舎等の再配置、積極的な土地利用の展開 | ⑨商業と交流空間の機能的展開…新たな商業拠点空間の整備、浜のにぎわい交流空間の整備、沿道型物販売所の整備 |
| ④創造的エネルギー対策の推進…再生可能エネルギーの活用と普及、スマートグリッドの展開、LNG（液化天然ガス）供給基地化の推進 | ⑩震災メモリアル伝承事業の推進…震災メモリアルパークの整備 |
| ⑤生活の安心ネットワークの構築…保健・医療・福祉・介護機能の向上と連携 | ⑪新機能で地域を支える学校の整備…小・中学校の同一敷地内への併設及び機能の強化 |
| ⑥新産業と雇用の創出…被災企業の復旧支援の推進、特性を生かした新産業の創出 | ⑫将来の希望を創る個性的な取り組みの推進…樺野高炉跡の世界遺産登録へ向けての取り組み、国際的なスポーツ大会の開催 |

○復興に向けた取り組み

〔水産業・商工業の復旧支援〕 H24.7月末現在

- 〔水産業関係〕 ・H23.8月魚市場再開、水揚げ可能に
 ・市内3漁協で被災した漁船1,692隻のうち688隻が復旧
 ・被災した水産加工場の16社のうち13社が操業再開



〔商工業関係〕・中小機構の制度を活用し、市内13ヶ所に221区画の仮設店舗・事務所・工場を整備

- ・中小企業被災資産修繕費補助金134件(約5億6,800万円)
- ・中小企業被災資産復旧事業費補助金 :4件7,186千円
- ・国・県のグループ補助金 市内11グループ167社が認定
- ・かまいしキッチンカープロジェクト 現在6台が稼動中



〔ラグビーワールドカップの誘致、岩手国体の開催〕

- ・2019年にラグビーワールドカップ日本開催が決定
- ・2014年までに国内開催地が決定される予定(日本全国10都市程度)
- ・震災復興のシンボル、地域活性化による経済面からの復興促進、スポーツを通じた国際交流の促進、子どもたちの夢と希望、全国からの釜石支援の恩返し、被災地の取組みの全国発信
- ・岩手国体の2016年開催決定
- ・当市では、ラグビーとトライアスロンが開催される予定

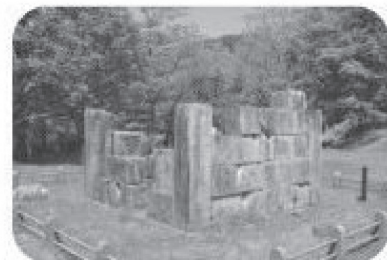


〔橋野高炉跡の世界遺産登録に向けた取り組み〕

- ・市の北西部にある橋野鉄鉱山(橋野高炉跡及び関連施設)は、幕末から明治にかけて日本の近代化の先駆けとなった重工業分野の産業遺産群を構成するものとして、九州・山口地域など8県11市で、シリアル・ノミネーションによるユネスコ世界遺産登録を目指す。

◎今後のスケジュール

- ・平成25年度～推薦書案を国に提出、政府が推薦書正式版をユネスコ世界遺産委員会へ提出
- ・平成26年度～国際記念物遺跡会議(イコモス)による審査・勧告
- ・平成27年度～ユネスコ世界遺産委員会で登録の可否を決定



〔環境未来都市構想〕

釜石市環境未来都市構想

釜石市、震災後の混乱で明らかになったエネルギー環境を向上させるため、緊急的に利用できる独立電源の確保や長期的なエネルギーの安定供給の観点から、釜石独自のエネルギーのベストミックスを進めることや、保健・医療・福祉のネットワーク強化、フィールドミュージアム構想の推進などを盛り込み、復興基本計画を土台に、釜石の歴史を踏まえて組み立てた構想です。

〔復興道路〕

地域の早期復興のため、三陸沿岸を縦につなぐ三陸沿岸道路「復興道路」(仙台～八戸 延長約360km)と、沿岸部と内陸部をつなぐ「復興支援道路」が事業化されています。

釜石はその結節点として交通利便性が高くなります。



○写真で見る震災直後と現状

震災直後

現在

津波襲来(釜石市浜町)



釜石市大町



釜石市大渡町



釜石市鶯住居町



震災直後

現在

釜石市両石町



釜石市両石町（防潮堤）



釜石市平田町

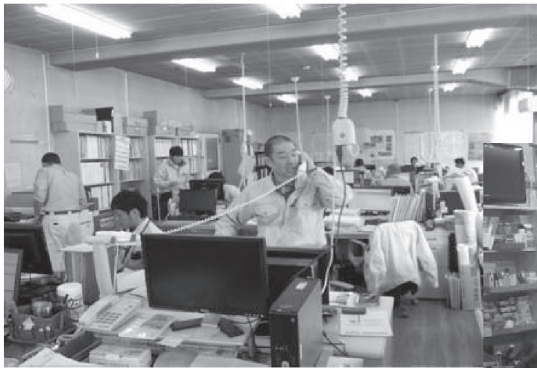


釜石市役所玄関前（釜石市只越町）



○釜石市で活動する派遣職員

事務室の様子



職場ミーティング



現場での住民説明



漁港整備の現場



仮設住宅での保健活動



仮設住宅を訪問する保健師



○復興の足音



